

令和2年度 さいたまま市立見沼小学校 自己評価書

1 学校で設定した「令和2年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) 確かな学力の育成を図る授業の工夫・改善
学習規律の確立と家庭学習の共通理解。「よい授業」の4つの因子を活用した授業の推進(Grit)。タブレット端末を活用した授業の一層の推進。GS研修の充実(Global)。
- (2) 学校生活のあらゆる場面を通じた観察、声掛け、見守りの徹底
教師と児童、児童相互の信頼関係、基本的な生活習慣、生徒指導の充実、問題行動等への適切な対応。積極的な生徒指導、教育相談の組織的な展開。組織的対応。外部機関との連携。教職員間の報告、連絡、相談、見届けの徹底。
- (3) 子どもの健康と命を守るための諸活動の充実
安全点検の確実な実施。食物アレルギー対応の徹底。体力テストの分析と活用。救急救命講習、心肺蘇生法実習の実施。学校医、薬剤師との連携。
- (4) コミュニティ・スクールの充実
学校運営協議会の保護者及び地域のメンバーの増員。より細やかな保護者や地域の意見の反映。既存のSSN、チャレンジスクール、学校安全ネットワークとの合同会議の開催及び連携強化の充実。

2 評価結果について

- ・「よい授業」集計結果において、4つの因子の学校平均は令和元年度の市平均を超えることはできなかった。最も差が大きかった「児童生徒の活動」(-0,7ポイント)は、新型コロナウイルスの影響により、児童同士が関わり合う学習活動が行えなかったためと考える。
- ・「学校の授業は分かりやすい」について、肯定的な回答をした児童の割合が96%、保護者の割合も91%と昨年度以上の数値となった。「学校で楽しく過ごしている」について、肯定的な回答をした児童の割合は94%、保護者の割合94%と、こちらも昨年度以上の数値であった。
- ・「先生は質問や悩み事に応じてくれる」の項目では、96%の児童が肯定的に答えている。保護者も91%で肯定的な回答だった。また、生徒指導や教育相談における案件について、校内での情報共有はもちろん、SCやSSW、外部機関とも連携して迅速な対応を行った。
- ・「学校は安全できれいだと思う」の質問では、86%の児童が肯定的に答えている。同様の質問に対して、保護者からの肯定的な回答も91%となっている。コロナ禍で例年通りの活動は厳しい状況ではあったが、多くの保護者や地域の方にご協力をいただき、2回の除草作業や大掃除を実施できた。児童、保護者の意見として多かったトイレについても、今年度改修工事が行われているため、来年度以降は改善していくと考えられる。
- ・「安全・保健・給食指導」における教職員アンケートの6項目においても、肯定的な回答が全項目95%以上となっている。
- ・「学校は情報提供を行うとともに、PTA・地域の活動に協力し、連携を図っている」の項目では、95%の保護者が肯定的に答えている。「保護者は、学校教育に積極的に参加・協力している」の項目では、昨年度比5%減の78%となってしまっている。コロナ禍で保護者や地域との連携が難しい部分はあった。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

- ・引き続き、確かな学力の育成を図るために、授業の工夫・改善を行っていく。また、一人一台タブレットを効果的に活用していけるように研修を行い、児童に還元していく。さらに、「よい授業」の4つの因子も意識して、わかる授業・魅力ある授業の充実を図る。
- ・教職員と児童とのより強い信頼関係の構築を目指し、児童がいつでもだれにでも相談できるような環境を整えていく。そのため、SCやSSWの効果的な活用や保護者への啓発も確実に行う。さらに、指導力向上のために、教職員間での情報交換や生徒指導・教育相談に関する研修を実施していく。
- ・学校運営協議会で「目標やビジョンの実現のために必要な組織」等について熟議を行い、必要な組織構築、組織運営を行っていく。